

Medical Innovation

東京大学グローバルCOEプログラム

学融合に基づく医療システムイノベーション

CONTENTS

- 01 CMSIのミッション
CMSIの人材育成
知恵をつなぐ、人をつなぐ、
そして未来へつなぐ。

- 03 拠点リーダーが語るCMSI



医工薬の学融合

拠点リーダー
片岡一則

- 05 工学系リーダーから



国際的な視野を 持つ人材育成

工学系リーダー
長棟輝行

- 06 わたしのCMSI

交流を通して自分の可能性を拓く
医学系研究科 RA 服部理恵子

異なる視点との交流で視野を広げる
工学系研究科 RA 内田寛邦

広く、そして深く掘り下げることの魅力
薬学系研究科 RA 藏品良祐

- 07 インフォメーション

サマーインターンシップ

リトリート

セミナー開催予定

活動報告

報道/受賞



知恵をつなぐ、人をつなぐ、そして未来へつなぐ。

■ CMSIのミッション

東京大学グローバルCOEプログラム「学融合に基づく医療システムイノベーション (CMSI: Center for Medical System Innovation)」は、医療分野におけるイノベーションをグローバルな視点で創出するリーダー人材の育成を目的とした新たな教育プログラムです。世界最先端の研究開発および先端医療を推進する医工薬の現場に確固たる軸足を置きながら、現実社会への見識と経験を積む機会を提供していきます。この体制を最大限に活用することで、先端医療システム実現のための融合分野を科学として統合するとともに、独自の教育体制を通して当該分野を国際的に先導できる人材を育成します。育成された人材には、先端科学技術を理解・推進・評価できる力量とともに、社会・経済・経営にも広い視野を持つΠ(パイ)型人材として、先端科学技術が新たに実用化・産業化される道を切り拓くことが期待されます。このように「科学技術イノベーションの推進」と、研究成果の社会還元を通じた「社会経済イノベーションの牽引」により、国際社会を先導するリーダー人材を育成することがCMSIのミッションです。

■ 博士課程大学院生への新たな融合教育プログラム



世界に通用し、活躍し、貢献できる人材育成。

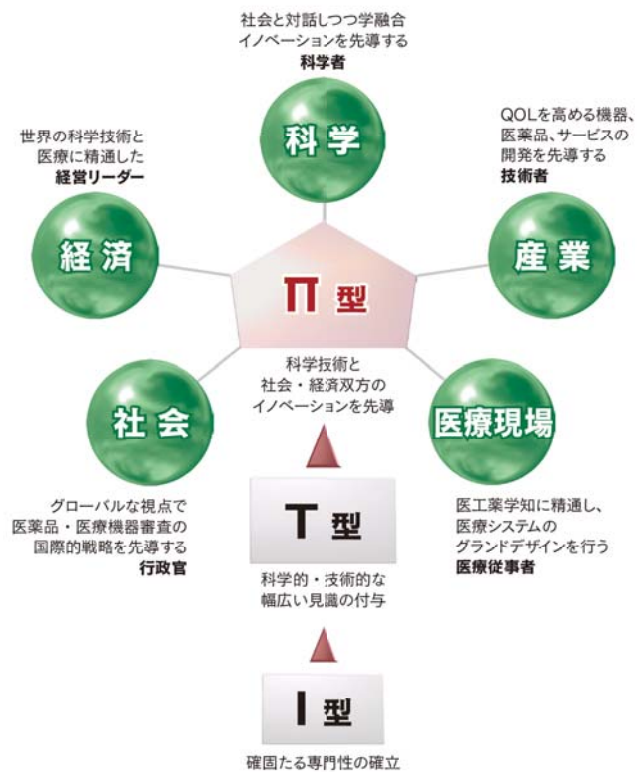
■ CMSIの人材育成

CMSIでは独自の教育プログラムを構築し、主に博士課程大学院生を対象に人材の育成を進めています。本プログラムでは、医工薬融合領域での最先端研究に関する講義に加え、研究成果の社会還元のための経済学・経営学・社会的視点に立った講義、海外研究機関でのインターンシップ、企業や医療機関における実習、融合領域研究の事業化事例に関するケーススタディーなど、特徴あるカリキュラムを通して、学融合を進めるための素地を身に付けることができます。本拠点を修了した人材には、広い視野と融合的価値観を持ったリーダーとして、産業界、科学界、行政をはじめとした様々な領域で国際的に活躍することが期待されます。

RA (リサーチアシスタント) 制度

CMSIでは、医学系、工学系、薬学系研究科の博士課程に在籍中・在籍予定の学生からリサーチアシスタント (RA) を採用し、経済的な支援を行うとともに、リーダー人材としての能力の育成を図っています。RAには自身の研究活動に進進し、医工薬融合領域における最先端研究をより一層推進していくことと同時に、CMSIのプログラムに主体的に取り組み、学生自らがプログラム自体の設計・運営に携わることが期待されます。また、RAはインターンシップを始めとしたCMSIのカリキュラム、イベントに優先的に参加することができます。

■ 拠点の人材育成イメージと修了後の活躍例



インタビュー 拠点リーダーが語るCMSI

[医工薬の学融合]



インタビューア

上野 傑

Suguru Ueno

東京大学大学院
薬学系研究科
統合薬学専攻
生体異物学教室
(入村研究室所属)
博士後期課程2年

医療システムイノベーションについて

Q. 「医療システムイノベーション」とは
どういうことでしょうか？

CMSIは、医療をシステムとして捉えているところに特徴があります。そして、イノベーションはそれを革新するという、つまり医療システムを変革していく、という我々の決意を示しています。イノベーションには大きく二つあります。一つは「技術的イノベーション」です。英語のディスカバリー (Discovery) とディベロップメント (Development) という言葉は、日本語では「発見」と「開発」という意味で捉えられがちです。しかしディベロップメントにはもっと広い意味があり、発明という意味に近い。発明は突然閃くものではなくて、発明に至るための素地が必要になります。そうした素地には起こる現象を分子レベルで突き止めるというおおとのところがあり、だからこそ非常に小さいレベルで物事を築きあげることが出来ます。そこまでいくと物理も化学もありません。物理はシンプルなものからより複雑なものを的確に解析できるようになってきました。また、化学は経験論的なところから分子レベルできちんと物事が分かるようになってきました。生物学も今は分子生物学になり、分子レベルで物事を考える、まさに物理、化学の領域に近づいてきました。このように今まで別の形で発展してきた学問分野が統合されつつありますが、それがまさしくナノサイエンスであり、ナノテクノロジーといった「技術イノベーション」だと思います。

それからもう一つは「社会的イノベーション」です。研究する時に原理主義に陥ると目的がわからなくなりますが、自分が何のために研究しているかを考えると、本当は研究成果を社会に還元してみんなが幸福・健康になるように努めることにいきつきます。今、日本で問題になっているのは、良い研究をしてもそれが社会に還元されないということです。「社会に還元されないのは制度が悪い」と制度のせいにはしていますが、それは本当なのでしょう。 “There is no rule without exception.” (例外のない規則はない) と言いますが、逆に規則に例外はないと思って、自分が最初から諦めているように思います。私は、サイエンティストやエンジニア、メディカルドクターは、本当はもっと社会に影響力があると感じています。しかし、自分たちがその力を認識していません。それを考えるには、自分がやっていることを世の中に持っていくための技術・考え方を自分で身につける必要があります。そうした部分でサイエンティスト、エンジニア、メディカルドクターの側から医療の「社会的イノベーション」のイニシアティブをとるべく、CMSIでは社会還元学という部門を設けています。「技術的イノベーション」と「社会的イノベーション」の双方を牽引する人材を育成することで、「医療システムイノベーション」を実現すること。それこそがCMSIが果たすべき役割です。

片岡一則

(拠点リーダー)



Innovation

撮影/田中亜紀

医工薬の学融合

Q. 学融合の拠点を設立するに当たって、どのような問題意識を持たれているのでしょうか？

私は常に物事は多面的であると思っています。つまり一つの研究テーマは、多面的に観察する必要があります。そうしたテーマで研究をやるには研究する側も多面的な視点を持つ必要があります。特に医療分野の発展には学融合が不可欠です。医療は病気を検出して診断して治療するものですので、何が起きているかを検出するセンシング、次に検出された情報を整理するプロセッシング、最後に整理された情報に基づいてアクションをするオペレーションの段階があります。これを一つのシステムとして動かすには、様々な知識や考え方を総動員した修学的な取り組みが必要です。大昔は個人単位でそういうシステムが形成されていました。ヒポクラテスが、個人で哲学をやり、医療をやり、薬を作っていたように。しかし現在は学問が細分化され、センシング、プロセッシング、オペレーションの要素が、バラバラに発展を遂げてしまいました。そうすると、オペレーションとしてはすごくいい研究開発なのに、プロセッシングの考えがないために結実しないということが起こります。このバラバラに発展してしまった医工薬を束ねて、修学的に考えることが医療という領域として非常に重要だと考えています。

CMSIの学生に向けて

Q. 最後にCMSIに参加する大学院生へのメッセージをお願いします。

本拠点のように、医学、工学、薬学の学生が同じ目的に立ち、同じ場を共有して、異なる視点から関係を持つということは非常に重要なことです。他学部の学生に研究の話をした時に、全く違った発想に基づいた質問が出てくる。それによって思いも寄らないアイデアが生まれてくる。そういった関係が研究に良いフィードバックを与えていると思っています。

また、異分野に人脈が形成されることも非常に大きいと思います。大学院の時期に培われた人脈はアイデンティティーが形成される段階にあるため、しがらみなどは関係ありません。そういう人間関係からは、十年先、二十年先に自分が何か挑戦しなければいけない時に気軽に話をし、閃きを生むアドバイスを得ることができます。

私は東京大学の大学院生はポテンシャルが高いと思っています。ただ自分のポテンシャルに気がついていません。CMSIはポテンシャルを引き出す「きっかけ」を提供する場でありたいと考えています。学生の皆さんには、あまり殻を作らず、引き出されるべきポテンシャルにネットを掛けずにいて欲しいと思います。自分の道を自ら主体的に、責任を持って選び、CMSIで自分は何ができるかという視点で参加していただくことを期待します。

工学系リーダーから

未来を拓く人材育成への想い

長棟輝行

Tenyuki Nagamune

東京大学大学院 工学系研究科 バイオエンジニアリング専攻 教授
(工学系リーダー)



自ら学び、自らつくる というマインド、 国際的な視野を持つ 人材育成。

本拠点で行っている「学融合に基づく医療システムイノベーション」には、大きく2つの目標が設定されています。1つ目は、「よりよいシステム実現のために分野融合を実現すること」です。一般的に異分野とのコラボレーションにおいて、言葉やテクニカルタームなどの初歩的なことが障壁となっています。そのため、異分野学生のために入門講義を開講し、積極的な受講を奨励しています。また、実践的な教育としてケーススタディーを行うことにより、本当の意味でのコラボレーション、すなわちそれぞれの分野のシーズ・ニーズを理解することをめざしています。例えば、社会還元系の「医療経営イニシアティブ」では、大手製薬会社やバイオベンチャーの方々から産業界の具体例を伺うという講義を展開しており、基礎研究から臨床試験、販売までの創薬の流れや資金調達面での問題、創薬効率の問題など、これまで学生が聞いたことのない内容が盛り込まれています。

2つ目は、「高度な技術とヒューマニティを持った、医療分野を先導する国際的リーダー人材を育成すること」です。これまで博士研究者や研究環境については、狭い専門性によるタコツボ的な状態がよく指摘されていました。企業側も研究内容がマッチしていないと柔軟性に欠けるとして、博士研究者を採用しない理由の一つとなっていました。これからの研究者像として、通常求められる「専門性とそれを応用する広い視野 (T型人間)」に加えて「社会に対する目」を持って、研究と共にマネジメントもできるような人 (Π型人間) を育成することをめざしています。RAの学生には短期的な交流ではなく、このプログラムを利用して長く連携できる友人を作り、日本のみならず世界で活躍して頂きたいと思っています。

医学系研究科

医

東京大学大学院
医学系研究科
外科学専攻
(高戸研究室所属)
博士後期課程3年



服部理恵子

Rieko Hattori

「交流を通して自分の可能性を拓く」

昨年の10月よりCMSIプロジェクトにRAとして参加しています。私は医学系ですが、普段の研究活動に際して工学・薬学に関する知識が必要になる事は度々あります。CMSIは、私にとっては専門外の先生方のセミナーや講義などが数多くあり、異なった領域からの関連知識を身につけるためにとても魅力的なプロジェクトです。また、研究のみならず角度を変えた物の見方など、他学部の方々との交流を通して自分自身が一まわり大きくなれたらと思っています。さらには海外の大学との提携など、視野の広い魅力的なカリキュラムもあり、自分次第でかなり大きな収穫が得られるプロジェクトなので、前向きな気持ちで頑張っていきたいと思っています。

工学系研究科

工

東京大学大学院
工学系研究科
バイオエンジニアリング専攻
(片岡研究室所属)
博士後期課程1年



内田寛邦

Hirokuni Uchida

「異なる視点との交流で視野を広げる」

CMSIプロジェクトには、今年の4月からRAとして参加しております。CMSIには海外の大学との積極的な提携によるサマーインターンシップや、RAが合宿を通してリトリートを行うなど、斬新で魅力的なカリキュラムが数多くあります。また、CMSIのRAの方々は医工業のそれぞれの研究科から集まっており、私がこのプロジェクトに参加することで、これまで以上に異なった領域の方々と接点を持てることを楽しみにしております。まだ参加してから数ヶ月しか経っていないためCMSIプロジェクトの全貌が掴みきれませんが、これからCMSIプロジェクトに積極的に参加することで、学問領域のみならず人と社会との関わりなどを通して視野が大きく広がればと思っています。

薬学系研究科

薬

東京大学大学院
薬学系研究科
統合薬学専攻
生体異物学教室
(入村研究室所属)
博士後期課程1年



藏品良祐

Ryosuke Kurashina

「広く、そして深く掘り下げることの魅力」

CMSIの講義では、各分野のトップクラスの先生方が担当していることに非常に魅力を感じています。通常、学会等でそのような先生方からお話を聞けることはあっても、学生向けに話して頂ける機会はなかなかありません。さらに、講義後に講義内容や研究について直接討論できることはCMSIの大きな特徴の一つだと思います。またCMSIは、医工業の融合の視点を基軸にしながらも、それぞれの専門領域に特化した講義もあり、これまで経験したことのなかった幅広い視点から専門領域を深く掘り下げていけるものと思っています。その他、CMSIにはサマーインターンシップや海外出張支援制度があるので、それらを積極的に活用し、グローバルなスケールで最先端の技術や考え方を習得していきたいと考えています。

サマーインターンシップ Summer Internship

グローバルな視野と、
国際的ネットワークを持った
博士学生を育てるCMSIの
留学制度

グローバルCOE「学融合に基づく医療システムイノベーション」(CMSI)は、グローバル化プログラムの一環として、海外短期留学プログラム(サマーインターンシッププログラム)を実施しています。今年度は、留学先として4か所で研修を実施しました。

Boston

ボストン マサチューセッツ州

ボストン地区で開催される夏期研修プログラム(HST summer institute) Biomedical opticsコースに参加。同コースの研究室に所属し、主にバイオイメージングをテーマとして9週間の研究および研究発表を行う。



研修先: Center of Integration of Medicine and Innovative Technology (CIMIT: MIT, Harvard University, Massachusetts General Hospital など構成)

期間: 6月中旬~8月中旬 参加人数: 6名

Philadelphia

フィラデルフィア ペンシルベニア州

研修先は、米国の製薬・バイオ産業で歴史と伝統のある同大学の経営大学院。主に予防ワクチンの事業化プランに関し、8週間の実習を行なう。その際、現地の製薬企業やFDAへのヒアリング調査を実施する。



研修先: The University of the Sciences in Philadelphia (USP)

期間: 6月~7月下旬 参加人数: 1名

Houston

ヒューストン テキサス州

研修先は、テキサス州ヒューストンにある、がんに関する治療、予防、研究、教育を専門とする世界でも有数のがんセンター。本プログラムでは同センターの研究室に所属し、8週間の研究および研究発表を行う。

研修先: The University of Texas
MD Anderson Cancer Center
(UTMDACC)

期間: 7月初旬~8月下旬

参加人数: 5名



Munich

ミュンヘン ドイツ

Department of Pharmacy, Center of Drug Research, Pharmaceutical Biology-Biotechnology
ワーグナー教授の研究室にて研修。



研修先: Ludwig-Maximilians University 期間: 7月~8月下旬
参加人数: 1名

国際学会出張支援手続き情報

CMSIでは、海外で開催される国際学会で研究成果の発表を行う学生を対象に、出張支援を行っています。詳しい内容・手続きの詳細情報はCMSIのホームページをご参照ください。
(<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/CMSI/>)

● リトリート

CMSIでは、年に一度全体合宿(リトリート)を開催します。
分野を超えた学生、教職員が一堂に会して議論し、交流を深めます。

日 程：2009年9月19日(土)・20日(日)

場 所：東レ総合研修センター(静岡県三島市)

内 容：サマーインターンシップ成果報告、RA学生の研究発表、招待講演、
ケーススタディ実習。

● セミナー開催予定

● 第36回 東京大学薬学系研究科 分子薬物動態学教室 ミニシンポジウム(CMSI共催)

日 程：2009年9月17日(木)

場 所：小柴ホール(東京大学理学部1号館)

<http://www.f.u-tokyo.ac.jp/~sugiyama/Symposium/090917/symposium090917.html>

● 平成21年度CMSIシンポジウム(仮称)

日 程：2010年2月24日(水)

場 所：鉄門記念講堂(東京大学医学部教育研究棟)

<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/CMSI/event/index.html>

※その他の予定も開催が決まり次第、随時CMSIホームページに更新していきます。

<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/CMSI/>

セミナー開催報告

医工薬融合GCOEセミナー

2009

- 7月23日 岩田想 教授(京都大学), Prof. Philippe Manivet (Lariboisienne Hospital)
- 7月 2日 Prof. Weiyuan John Kao (The University of Wisconsin)
- 6月26日 Prof. Kathleen M. Giacomini (University of California San Francisco), 森山芳則 教授(岡山大学)
- 6月18日 大庭伸介 研究員(Harvard University)
- 6月 5日 Prof. Andrew Paul McMahon (Harvard University)
- 6月 2日 Prof. Stefan Seeger (Universitat Zurich Irchel)
- 3月18日 Prof. Mark John Smyth (Peter MacCallum Cancer Centre)
- 2月19日 Prof. Daan J.A. Crommelin (Utrecht Institute for Pharmaceutical Sciences)
- 2月13日 Prof. Oliver Bogler (The University of Texas MD 16日 Anderson Cancer Center)
- 2月 3日 Prof. Bruce B. Rosenthal (The University of the sciences in Philadelphia)
- 1月23日 Prof. Harald Fuchs (Westfälische Wilhelms-Universität Münster)

2008

- 11月10日 Prof. Marcus Textor (ETH Zurich)

CMSI Students Seminar

2009

- 6月17日 Dr. Josef Voglmeir (Manchester Interdisciplinary Biocentre)
- 5月19日 Prof. Gérard Délérís (Université de Bordeaux)
- 5月 1日 Prof. Michelle A. Winnik (The University of Toronto)
- 3月11日 Stephen P. Tomasovic (The University of Texas MD Anderson Cancer Center)
- 2月23日 Prof. Mauro Ferrari (The University of Texas Health Science Center)
- 1月23日 Prof. Harald Fuchs (The University of Münster)

2008

- 11月19日 Prof. Ernst Wagner (The University of Munich)
- 11月19日 Prof. Marcus Textor (ETH Zurich)

■活動報告

CMSI開設記念シンポジウム

2009年2月20日(金)



CMSIの開設記念シンポジウムが、本郷キャンパスの武田先端知ビルにて開催されました。岡村定矩副学長の挨拶を皮切りに、文部科学省、厚生労働省、経済産業省の担当者、そして日本製薬工業協会会長および日本医療機器産業連合会会長に御講演を頂きました。

その後、RA代表学生6名による熱い口頭研究発表と、RA学生のポスター発表が行われました。本シンポジウムはCMSIがスタートしてから全学生が触れ合う初めての機会であり、

彼らの研究内容を実際に見て質問をする機会が得られたことは非常に貴重な体験であったと感じます。

午後から、研究者やサイエンスディレクター、そしてビジネススクール教授という豪華な顔ぶれの講師陣による招待講演があり、その魅力的なお話は今でも鮮やかに記憶に残っています。夕方からのレセプションでは、著名な講師の先生方とディスカッションすることができ、かつサマーインターンシップの留学先についても様々な情報を得ることができました。CMSIの魅力・特色がふんだんに詰まった開設記念シンポジウムであったと感じます。

(詳しくは、CMSIホームページから、開設記念シンポジウム詳細を御覧ください。

<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/CMSI/event/index.html>)

(薬学系研究科2年 上野 傑/記)



スタンフォード大学ビジネススクール 東京大学学生交流会

2008年12月17日(水)

スタンフォード大学ビジネススクールとの学生交流会が、医学部図書館大会議室にて開催されました。

東京大学からは小宮山宏総長(当時)、CMSIの特任教員および学生30名が、スタンフォード大学からは学生28名と代表教授1名が参加し、社会還元系リーダーの木村廣道特任教授の進行で日本発のイノベーションをテーマとした討論が繰り広げられました。その後、学生同士で六本木に場所を移し、同年代で専門の異なる学生と、学生生活や将来の夢をお互いに語り合いました。スタンフォード大学ビジネススクールの海外研修プログラムの中でも東京大学訪問は今回が初めてであり、社会還元学として、お互いに非常に有意義なプログラムであったと思います。

この交流会は企画から準備、そしてスタンフォード学生との交渉まですべてを、CMSIのRA学生が1から立ち上げました。二ヶ月の準備期間を通して、研究室に籠るだけでは学べない多くのものを得ることができました。

(詳しくは、CMSIホームページから、学生交流会詳細を御覧ください。

http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/CMSI/event/other_archive.html)

(薬学系研究科2年 上野 傑/記)



■ 報道 / 受賞

● 報道

Reports

2009

- 8月** 日経産業新聞 8月10日付
坂田利弥 講師
東大、生殖補助医療における受精卵の客観的評価デバイスを開発
- 7月** Angew. Chem. Int. Ed. 誌 (表紙)
ヤン・イー 特任助教
Charge-conversional polyionic complex micelles-efficient nanocarriers for protein delivery into cytoplasm
- メディカルバイオ 2009.7月号
酒井康行 教授
フレカサー第13回 移植に適した大型臓器の開発に挑む
- 6月** MRS Bulletin 誌 (表紙)
オランオ・カブラル 特任助教
Nanopolymeric Therapeutics
- 日経産業新聞 6月18日付
酒井康行 教授
肝細胞1000個で臓器の働き
- 半導体産業新聞 6月17日付
鷲津正夫 教授
ナノテク・ものづくりバイオ最前線 第8回国際バイオEXPO & 国際バイオフォーラム
- AAPS (American Association of Pharmaceutical Scientists)
杉山雄一 教授
Distinguished Pharmaceutical Scientist Video Interview Series
- ノア通信36号
上坂 充 教授
超小型ライナックの開発
- 5月** 日経産業新聞 5月29日付
村田茂穂 教授
細胞の不要たんぱく質分解の仕組み解明
- 毎日新聞 5月29日付
村田茂穂 教授
新抗がん剤開発に期待—不要物質分解酵素に不可欠たんぱく質4種を発見
- 5月** Mol. Cell. Biol. 誌 (表紙)
三浦正幸 教授
Genetic evidence linking age-dependent attenuation of the 26S proteasome with aging process
- 日本経済新聞 5月10日付
片岡一則 教授
がん患部直接たたく
- テレビ東京 5月8日
柴崎正勝 教授
入手容易な化合物からのタミフルの合成
- 4月** Adv. Drug Deliv. Rev. 誌 (表紙)
西山伸宏 講師
Design and development of dendrimer photosensitizer-incorporated polymeric micelles for enhanced photodynamic therapy
- 日本原子力学会誌
上坂 充 教授ら
原子力専攻 日本原子力学会歴史構築賞「東大電子ライナック施設」
- 毎日新聞 4月21日付
片岡一則 教授
たんぱく質：ナノレベル粒子で包んで細胞内へ 東大が世界初、がん治療薬開発に
- 日経産業新聞 4月9日付
片岡一則 教授
化学者、がん治療に挑むたんぱく細胞内に注入
- Angew. Chem. Int. Ed. 誌 (ハイライト)
岸村顕広 助教・小穴英廣 講師
共同研究 (工学系) 局所加熱を利用したポリイオンコンプレックス型巨大ユニラメラベシクルの形成
- Nature Reports Stem Cells
鄭 雄一 教授
Gプロテインのシグナルは幹細胞のホーミングに必須である
- 2月** 日本テレビ 2月21日付
大島まり 教授
世界一受けたい授業

● 受賞

Awards

2009

- 8月** Biomedical Transporters Conference 2009 Poster Competition 3rd Prize
宮島真理 さん (薬学系D1)
Involvement of multiple organic anion transporters in the brain-to-blood efflux of dehydroepiandrosterone sulfate (DHEAS)
- 7月** 日本動物細胞工学会 優秀ポスター発表賞
長谷部貴之さん (工学系D1)
ナノ構造制御酸化物表面を利用した慢性骨髄性白血病細胞の分化誘導、及びテラヘルツ波による動物細胞物質測定
- 日本骨代謝学会学術賞
鄭 雄一 教授
- 物質・材料研究機構 NIMS Award 2009
片岡一則 教授
- 第25回日本DDS学会学術集会 ベストポスター賞
宮田完二郎 助教
低毒性かつ高効率エンドソーム脱出を実現する高分子型遺伝子キャリアの構築と全身投与と遺伝子デリバリーへの展開
- 日本DDS学会奨励賞
西山伸宏 講師
- 6月** 財団法人山下太郎顕彰育英会 第20回山下太郎学術研究奨励賞
齋藤 敬 特任研究員
高効率細胞膜穿孔技術による細胞改変システム
- 5月** 国際薬物動態学会 ISSX Asian Pacific New Investigator Award
楠原洋之 准教授
- 情報ストレージ研究推進機構 SRC論文賞2008
藤田博之 教授
Electrostatic Rotary Stepper Micromotor for Skew Angle Compensation in Hard Disk Drive IEEE 22nd International Conference
- 4月** 米国バイオマテリアル学会 クレムソン賞
石原一彦 教授
生体親和性リン脂質ポリマーバイオマテリアルの創製
- 文部科学大臣表彰若手科学者賞
加藤大 特任准教授
高性能分離分析法の開発とナノ物質への応用についての研究 文部科学省
- FIP: International Pharmaceutical Federation
Hoest-Madsen Medal
杉山雄一 教授



「CMSIへの想い」

編集委員長 上野 傑 Suguru Ueno

CMSIがスタートして間もなく、2008年12月にスタンフォード大学交流会、また2009年2月にはCMSI開設記念シンポジウムが開かれました。そこでは、ビジネススクールの学生や国際的に著名な先生方と討論する機会が得られ、大変有意義な時間を過ごすことができました。そんな中で、もし“What is your interest in your research?”と、初対面でかつ専門の違う相手に聞かれたらどうでしょうか。そこで私たちは、躊躇せず自分の研究の魅力を英語で伝え、さらに社会への還元方法などを含めてディスカッションに持ち込むことができるでしょうか。私にとっては大きな課題の一つと痛感しました。私はこれからCMSIでの体験を通して、研究者として世界のステージに羽ばたくことができるように、専門領域を越えて貪欲に吸収していきたいと思っています。そして私は今夏、テキサス大学MDアンダーソンがんセンターに二ヶ月留学します。まずは、私にとっての大いなる助走の第一歩です。

<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/CMSI/>

発行：東京大学グローバルCOEプログラム「学融合に基づく医療システムイノベーション」事務局
〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学工学部3号館251A号室
TEL: 03-5841-8446 FAX: 03-5841-1510 E-mail: cmsi_info@cmsi.t.u-tokyo.ac.jp

編集委員長：上野 傑 (薬・入村研・博士2年)
編集副委員長：藏品良祐 (薬・入村研・博士1年)
編集委員：服部理恵子 (医・高戸研・博士3年)
内田寛邦 (工・片岡研・博士1年)
勝田 毅 (工・酒井研・博士1年)

デザイン：(株)スタジオエル